

裁判所事務官17人 新聞づくり学ぶ

裁判所事務官が民間企業の業務や考え方を学ぶ大阪高裁の「体験型企業訪問プログラム」で、大阪・神戸両地裁や神戸家裁などの若手事務官ら計17人が産経新聞大阪本社（大阪市浪速区）を1月25日と2月7日に訪れた。実際に新聞の編集作業の流れや記者の果たす役割について学んだ。

7日は若手事務官の男女9人が参加。編集局で記者が出稿した記事をデスクが編集した後、校閲部が用語や言い回しの間違いを正す―などの流れを体験した。質

本社で研修

疑応答で、見出しをつけ、紙面レイアウトを

担当する編集部員が「読者の関心を引くように見出しを工夫している」と説明。レイアウト端末で紙面を組む業務も紹介した。

ウェブ編集室では、研修に参加した事務官から「紙面とニュースサイトの記事は同じか」との質問も。新聞の役割について藤浦淳産経新聞編集企画室企画担当部長が「民主主義で大切な選挙で、新聞は投票の判断材料を提供する」と意義を説明した。



産経新聞大阪本社編集局を見学する裁判所事務官ら＝7日午後、大阪市浪速区